

前川建築魅力発信について

岡山県土木部

1. はじめに

岡山県には、建築家 前川國男が手掛けた「岡山県庁舎」、「岡山県天神山文化プラザ」、「林原美術館」という三つの建築物がある。本県では平成 28 年以降、前川建築を観光資源として活用するため、その魅力を発信する取組を行ってきたところであるが、そのうちの一つ、岡山県庁舎は、令和 6 年 3 月に耐震化整備工事が完了した。今回の耐震化整備工事に併せて、岡山県庁舎における前川建築の見どころを紹介するツールやパンフレットの作成を行い、さらに魅力発信を強化して取り組んでいく。

本稿では、岡山県庁舎を中心とした本県の前川建築魅力発信について紹介する。

2. 前川國男と県内の前川建築

(1) 前川國男について

前川國男は明治 38 (1905) 年新潟県で生まれ、その後 4 歳で東京都に移り住む。東京帝国大学卒業と同時に渡仏し、ル・コルビュジエのもとで 2 年間学び、帰国後、アントニン・レーモンドの事務所を経て、昭和 10 年に「前川國男建築設計事務所」を設立する。前川國男が手掛けた作品は 200 以上にものぼり、その用途も居住施設、事務所、文化施設に至るまで多岐に渡っており、中でも公共建築の割合が高い。

(2) 県内の前川建築

岡山県庁舎は戦後復興の象徴として昭和 32 年に竣工した前川國男最初の庁舎建築で、黒紺のカーテンウォールとコンクリート打放しの対比、大きく開かれたピロティが印象的な建築物である。当初は本庁舎本館・議会棟旧館が建設され、その後、西庁舎、南庁舎、議会棟新館、本庁舎東棟が増築された。なお、南庁舎は警察本部庁舎建設のため、平成 28 年に解体されている。令和 6 年 3 月に本庁舎本館と議会棟旧館の耐震化整備工事が完了し、同年 12 月に本庁舎本館、議会棟旧館及び西庁舎が登録有形文化財に登録された。

岡山県天神山文化プラザは昭和 37 年に岡山県総合文化センターという名称で、図書館・展示室・ホールといった複合文化施設として開館した。建物は上から見ると T 字型



岡山県庁舎



岡山県天神山文化プラザ

の外観で、全面コンクリート打放し仕上げになっている。鳥柱と名付けられた彫刻家 山縣壽夫のリーフや壁を切り裂くデザインの空調吹き出し口など、芸術的な部分も特徴のひとつである。

林原美術館は昭和 38 年に竣工し、「岡山美術館」の名称で開館した前川國男最初の美術館建築である。外装には焼き過ぎレンガが用いられ、手作業で積み上げられた不揃いな形状のレンガが特徴的で周囲と調和している。このレンガの外壁とともにコンクリート打放し仕上げの水平庇の外観も特徴のひとつで後の前川の美術館建築にも影響を与えており、令和 5 年に登録有形文化財に登録された。



林原美術館

3. 魅力発信に向けた取り組み

岡山県庁舎では、老朽化や耐震性不足等といった問題解決に向けて、令和 2 年 10 月から令和 6 年 3 月まで 3 年半をかけて大規模な改修工事が実施された。建物の機能を強化させるための計画だけでなく、歴史的背景を基にした建物としての価値の維持という側面を成立させながら工事を完成させた。前川國男が手掛けた作品として、竣工時の原型を尊重することに留意し、更新する場合にもオリジナルの意匠を残すことに努めている。

県庁内の各所に見どころを紹介するキャプションを設け、常設展示コーナーの「前川國男・県庁舎ギャラリー」を設置した。前川國男の紹介をはじめ、県庁舎建設の歴史、耐震化整備事業によって解体された建築パーツの実物、さらには全国の前川建築を有する 9 つの自治体で構成する近代建築ツーリズムネットワークに関する情報までを網羅した内容を展示している。

また、岡山県庁舎ガイドブック「岡山県庁舎 1957-2024」、パンフレット「岡山県庁舎建築のしおり」の作成も行った。「岡山県庁舎 1957-2024」は、県庁舎の見どころや前川國男、前川建築の特徴を紹介した 1 冊。岡山県庁舎の内容が詳しくまとめられたもので、後述する「岡山県庁舎見学ツアー」にて記念品として配布している。「岡山県庁舎建築のしおり」は岡山大学学生の協力を得て作成したもので、県庁舎 1 階から見える県庁舎の見どころ等を紹介しており、誰もが手軽に手に取れる 1 冊として配布している。



県庁舎各所のキャプション



前川國男・県庁舎ギャラリー

そして「岡山県庁舎建築のしおり」作成に続き、令和6年度に「林原美術館建築のしおり」、令和7年度に「岡山県天神山文化プラザ建築のしおり」を作成した。

これらのキャプション、ギャラリーおよびガイドブック等は全て県職員自ら企画・計画・デザインを行っている。



岡山県庁舎ガイドブック



3 施設のパンフレット



4. 岡山県庁舎見学ツアー

令和6年5月から岡山県庁舎見学ツアーを定期開催し、毎月、定員10名程度、参加費無料で行っている。また、10名以上の団体に対しては個別のツアーも行っており、令和6年度は合計37回開催し、約600名の方にご参加いただいた。年齢層も幅広く、10代から80代までの方、また関東地方等の遠方の方にもご参加いただいている。

県の建築職員自らがガイドを務めており、若手の職員が主体となり、担当課という枠にとらわれることなくガイドを担うことができる職員を育成することで、定期開催の継続を試みている。

見学ツアーは、座学20分、現地見学70分の計90分で、座学では、前川國男の紹介、年代ごとの代表作、岡山県庁舎のあゆみを紹介している。

現地見学では普段立入禁止の3階回廊や屋上展望室を見学できる。参加者にもとても好評で「普段入ることができない場所を見学できてよかったです」、「説明が丁寧でわかりやすかったです」、「他の人にも勧めたい」といった感想を多くいただいている。



見学ツアー実施状況

5. 前川建築シンポジウム&みてあるきツアー

令和7年は前川國男生誕120周年の年であり、3年に1度開催される「瀬戸内国際芸術祭」や「岡

山芸術交流」の開催年でもあった。前川建築、そして芸術に関心が高まるこの年に、より多くの方に前川建築の魅力を発信するため、令和7年10月にイベントを開催した。

10月10日に開催した「前川國男生誕120周年 前川建築シンポジウム」では、神奈川大学建築学部建築史研究室松隈洋教授に「岡山の戦後復興と前川國男の求めたもの」についてご講演いただき、株式会社前川建築設計事務所橋本功所長に「おかやま前川建築の見どころ」をご紹介いただいた。その他にもパネルディスカッションや岡山県庁舎紹介動画の試写会を行った。平日であったが多くの方にご参加いただいた。



シンポジウム実施状況

10月11日に開催した「おかやま前川建築 みてあるきツアー」では、徒歩圏内にある、前川建築3施設のガイド付ツアーを各施設3回実施した。県外からの参加者が4割弱と多く、東北地方から九州地方まで全国各地からご参加いただいた。

2日間で開催した「前川建築シンポジウム&みてあるきツアー」は、参加者にとても好評であり、多くの方に前川國男および県内の前川建築を発信する良い機会になったと考えている。



みてあるきツアー実施状況

6. おわりに

令和7年は、前川國男生誕120周年ということもあり、県庁舎耐震化整備工事から始まった、岡山県庁舎を中心とした本県における前川建築魅力発信の集大成の年となった。前川建築に注目が集まっていることから、これまでに作成したパンフレットおよび見学ツアーを通して、引き続き県内外に前川建築の魅力を伝えていきたい。さらには、岡山県庁舎ガイドブックの英語版を作成し、海外に向けても発信していきたい。